

## ■次号(2012年3月号)次号予告

### ＜特集／大気由来窒素による水系負荷の最新事情＞

河川・湖沼等水域における水質汚染は、さまざまな水質保全策が功を奏し着実に改善しており、現在は農地、都市道路など、非特定汚染源負荷割合は大きくなりつつあるといわれていますが、最近大気由来の窒素系負荷問題が提起され、閉鎖性水域のみならず河川上流部の窒素負荷に一定程度寄与していることが報告されています。

特集では、近年調査された大気由来の窒素による水系への負荷について概要をまとめ、今後の水域環境保全の新たな側面として示したいと考えています。

\* \* \*

### 大気由来の窒素に着目した水系窒素負荷とその最新事情

(「大気由来の窒素に着目した流域の窒素収支に関する研究」成果の全体像と、大気由来窒素負荷により水質汚染の状況と研究面、対策面を含めた今後の対応について解説)

### 河川流域における窒素負荷の状況と大気由来窒素の負荷をめぐる最新状況

#### ●利根川上流域における窒素の状況

(首都圏から夏季に地上風に乗って移送される窒素化合物の降下により河川水中の窒素負荷が上昇している現象の把握と原因物質の解析、さらには窒素負荷対策への展望を解説)

#### ●大気降水量の実態と相模川上流域における窒素収支

(神奈川県相模湖・津久井湖の富栄養化の原因物質の一つである窒素負荷のうち、大気由来の窒素負荷量が無視できないことが明らかになった。場所にもよるが、窒素負荷の40～50%が大気由来という結果などを解説し、今後の水域の富栄養化対策にも言及)

### 閉鎖性水域における窒素負荷の状況と大気由来窒素の負荷をめぐる最新状況

—印旛沼における大気中アンモニア、硝酸の寄与とその影響をベースに—

(印旛沼における水質の改善を巡り、対策が実施されているにもかかわらず最近増加している窒素負荷の原因について大気由来の窒素の影響を調査し、面源系窒素負荷の40%が大気由来の可能性を示し、窒素対策に大気由来窒素の制御を提案した研究の解説)